令和8（2026）年11月19日発行

京都市総合企画局デジタル化戦略推進室
情報統計・データ利活用推進担当

統計解析

令和７(2025)年京都市の合計特殊出生率

統計解析No.157

この度、京都市における令和７（2025）年の期間合計特殊出生率（以下「合計特殊出生率」という。）を算出しましたので、その結果について紹介します。

１　京都市の合計特殊出生率

(1)　令和７（2025）年の合計特殊出生率

令和７（2025）年の合計特殊出生率は 1.01（前年から増減なし）。
出生数は 6,948 人で、前年比 142 人の減少。（**表－１参照**）

【表－１】　母の年齢（5 歳階級）別出生数、女性人口及び合計特殊出生率

母の年齢階級	出　生　数（人）		女 性 人 口（人）		合計特殊出生率及び母の年齢階級別出生率	
	令和6年(2024)	令和7年(2025)	令和6年(2024)	令和7年(2025)	令和6年(2024)	令和7年(2025)
合　計	**7,090**	**6,948**	**258,590**	**253,159**	**1.01**	**1.01**
15～19歳	41	38	28,503	28,374	0.01	0.01
20～24歳	393	356	36,676	36,053	0.05	0.05
25～29歳	1,784	1,677	35,662	35,587	0.25	0.24
30～34歳	2,580	2,717	33,048	32,585	0.39	0.42
35～39歳	1,720	1,645	35,512	34,527	0.24	0.24
40～44歳	542	501	40,833	39,516	0.07	0.06
45～49歳	30	14	48,356	46,517	0.00	0.00

注）母の年齢が 15 歳未満の場合、15～19 歳に、50 歳以上の場合、45～49 歳に合算している。
注）合計特殊出生率は小数点第３位を四捨五入しているので、総数と年齢５歳階級別の合計が一致しない場合がある。

＜合計特殊出生率とは＞

合計特殊出生率は、１人の女性が一生に生む子供の数を表す数値です。本来は、同一年生まれ（世代：コーホート）の女性の、15歳から49歳までの各年齢の出生率を積み上げたもの（コーホート合計特殊出生率）が正確な数字となりますが、この方法では、ある一つの世代の合計特殊出生率を見ようとした場合に、その世代が50歳になるまで数値が得られないという問題があります。

このため、特定期間（1年間）の出生状況に着目して、その年における各年齢（15歳から49歳まで）の女性の出生率を合計したもの（期間合計特殊出生率）が、現在は一般的に用いられています。本市で用いる合計特殊出生率も、この「期間合計特殊出生率」です。

なお、本市では算出に係る基礎資料として、出生数は厚生労働省「人口動態統計」の母の年齢（5 歳階級）別出生数を、女性人口は住民基本台帳の年齢（5 歳階級）別日本人女性人口（各年 10 月１日時点）を用いています。

(2) 京都市の合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率の過去20年間の推移をみると、緩やかな増加傾向を経て、平成27（2015）年、28（2016）年には1.30に達しました。その後は減少に転じ、令和7（2025）年は令和6（2024）年に引き続き、過去最低の1.01となりました。**（表－２参照）**

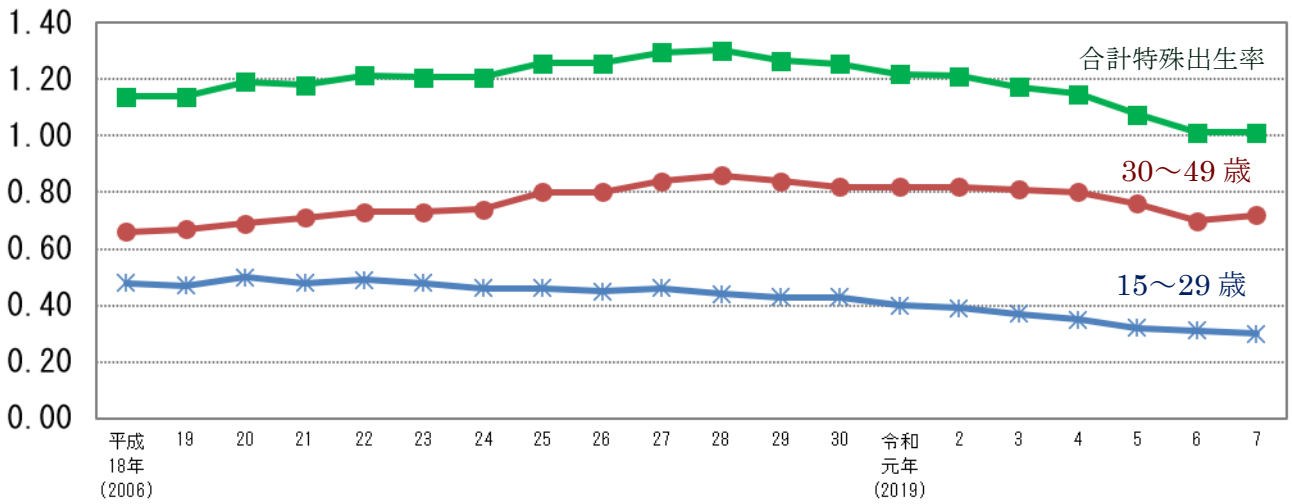
母の年齢階級別出生率の過去20年間の推移をみると、29歳以下の年齢層ではほぼ一貫して減少が続いています。一方、30歳以上の年齢層では平成28（2016）年までは増加傾向にあり、以後は横ばいから減少傾向が続いていましたが、令和7（2025）年は再び増加が見られました。**（図－１参照）**

【表－２】　合計特殊出生率及び母の年齢階級別出生率の推移

年次	合計特殊出生率	母の年齢階級別出生率						
		15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
平成18(2006)年	1.14	0.02	0.13	0.33	0.43	0.20	0.03	0.00
19(2007)年	1.14	0.02	0.12	0.33	0.43	0.21	0.03	0.00
20(2008)年	1.19	0.02	0.14	0.34	0.43	0.22	0.04	0.00
21(2009)年	1.18	0.02	0.13	0.33	0.44	0.23	0.04	0.00
22(2010)年	1.21	0.02	0.12	0.34	0.44	0.24	0.05	0.00
23(2011)年	1.21	0.02	0.11	0.34	0.44	0.24	0.05	0.00
24(2012)年	1.21	0.02	0.10	0.34	0.44	0.25	0.05	0.00
25(2013)年	1.26	0.02	0.11	0.33	0.47	0.27	0.06	0.00
26(2014)年	1.26	0.02	0.10	0.33	0.47	0.28	0.06	0.00
27(2015)年	1.30	0.02	0.11	0.34	0.49	0.28	0.06	0.00
28(2016)年	1.30	0.02	0.10	0.32	0.48	0.31	0.06	0.00
29(2017)年	1.27	0.01	0.09	0.32	0.48	0.30	0.06	0.00
30(2018)年	1.25	0.02	0.10	0.32	0.46	0.29	0.06	0.00
令和元(2019)年	1.22	0.01	0.09	0.30	0.46	0.29	0.07	0.00
2(2020)年	1.21	0.01	0.08	0.30	0.45	0.30	0.07	0.00
3(2021)年	1.17	0.01	0.07	0.28	0.44	0.29	0.07	0.00
4(2022)年	1.15	0.01	0.07	0.27	0.44	0.29	0.07	0.00
5(2023)年	1.08	0.01	0.06	0.25	0.42	0.27	0.07	0.00
6(2024)年	1.01	0.01	0.05	0.25	0.39	0.24	0.07	0.00
7(2025)年	**1.01**	**0.01**	**0.05**	**0.24**	**0.42**	**0.24**	**0.06**	**0.00**

注）合計特殊出生率は小数点第３位を四捨五入しているので、総数と年齢５歳階級別の合計が一致しない場合がある。

【図－１】　合計特殊出生率及び母の年齢階級別出生率の推移



2　行政区別の合計特殊出生率

(1) 行政区別の合計特殊出生率の概要及び推移

令和６（2024）年と比べて、上京区、左京区、中京区、東山区で増加。山科区、南区は横ばい。（**表－３参照**）

【表－３】　行政区別合計特殊出生率の推移

年次	市計	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見
平成18(2006)年	1.14	1.10	0.90	1.04	0.87	0.79	1.20	1.05	1.33	1.19	1.28	1.28
19(2007)年	1.14	1.13	0.84	1.07	0.92	0.84	1.22	0.99	1.36	1.18	1.24	1.26
20(2008)年	1.19	1.15	0.99	1.11	0.98	0.69	1.24	1.00	1.48	1.23	1.34	1.31
21(2009)年	1.18	1.11	0.92	1.16	0.94	0.79	1.25	0.93	1.39	1.23	1.31	1.33
22(2010)年	1.21	1.13	1.02	1.14	1.01	0.82	1.31	1.00	1.42	1.27	1.33	1.35
23(2011)年	1.21	1.11	1.03	1.16	0.97	0.94	1.37	1.06	1.42	1.23	1.26	1.34
24(2012)年	1.21	1.12	1.01	1.10	0.96	0.77	1.35	1.00	1.48	1.30	1.36	1.29
25(2013)年	1.26	1.21	1.07	1.28	1.06	1.02	1.29	0.99	1.46	1.32	1.45	1.32
26(2014)年	1.26	1.21	1.03	1.28	1.05	0.88	1.38	1.03	1.48	1.30	1.39	1.33
27(2015)年	1.30	1.32	1.04	1.22	1.17	1.07	1.38	1.01	1.49	1.33	1.46	1.39
28(2016)年	1.30	1.26	1.09	1.28	1.01	0.98	1.42	1.06	1.55	1.37	1.53	1.36
29(2017)年	1.27	1.19	1.00	1.26	1.10	0.92	1.30	1.06	1.50	1.27	1.47	1.37
30(2018)年	1.25	1.19	1.01	1.24	1.08	0.81	1.29	1.05	1.43	1.32	1.46	1.34
令和元(2019)年	1.22	1.16	0.94	1.15	1.02	0.80	1.27	0.90	1.49	1.25	1.39	1.38
2(2020)年	1.21	1.20	0.86	1.16	0.99	0.80	1.33	0.97	1.37	1.29	1.40	1.32
3(2021)年	1.17	1.17	0.88	1.20	0.93	0.82	1.23	0.91	1.42	1.18	1.31	1.30
4(2022)年	1.15	1.11	0.86	1.11	0.97	0.74	1.25	0.90	1.22	1.25	1.29	1.27
5(2023)年	1.08	1.09	0.77	1.07	0.94	0.80	1.15	0.78	1.26	1.14	1.20	1.15
6(2024)年	1.01	1.02	0.76	0.94	0.86	0.61	1.10	0.76	1.19	1.06	1.19	1.09
7(2025)年	**1.01**	**0.98**	**0.79**	**1.01**	**0.90**	**0.69**	**1.10**	**0.74**	**1.19**	**1.05**	**1.13**	**1.07**

注）旧京北町編入（平成 17（2005）年４月）以前の値は、合併前の市域で算出している。

(2) 行政区別、母の年齢（5 歳階級）別出生率

母の年齢階級別の出生率を行政区ごとにみると、全行政区で母の年齢30～34歳の区分が最も高いポイントとなりました。最大値は南区の30～34歳の区分で0.47でした。（**表－４参照**）

【表－４】　行政区別、母の年齢（5 歳階級）別合計特殊出生率

母の年齢階級	市計	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見	最大値と最小値の差
令和７年計	**1.01**	**0.98**	**0.79**	**1.01**	**0.90**	**0.69**	**1.10**	**0.74**	**1.19**	**1.05**	**1.13**	**1.07**	**0.50**
15 ～ 19 歳	0.01	0.00	0.00	0.00	0.01	0.02	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02
20 ～ 24 歳	0.05	0.04	0.01	0.02	0.02	0.03	0.09	0.02	0.08	0.05	0.05	0.08	0.08
25 ～ 29 歳	0.24	0.21	0.12	0.16	0.13	0.14	0.30	0.11	0.30	0.26	0.31	0.31	0.20
30 ～ 34 歳	0.42	0.43	0.36	0.46	0.39	0.25	0.45	0.31	0.47	0.44	0.46	0.41	0.22
35 ～ 39 歳	0.24	0.23	0.23	0.28	0.28	0.22	0.20	0.21	0.27	0.23	0.24	0.22	0.08
40 ～ 44 歳	0.06	0.08	0.06	0.08	0.07	0.03	0.05	0.08	0.07	0.05	0.06	0.05	0.05
45 ～ 49 歳	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注）合計特殊出生率は小数点第３位を四捨五入しているので、総数と年齢５歳階級別の合計が一致しない場合がある。

3　全国及び都道府県の状況

(1) 全国値及び京都府値

全国、京都府ともに、出生数は減少、合計特殊出生率は低下

令和７（2025）年の全国の合計特殊出生率（確定値）は1.14で前年比0.01ポイントの減少、京都府の合計特殊出生率(概数値)は1.03で前年比0.02ポイントの減少となりました。

また、出生数については全国で67万1,270人、京都府で1万2,677人となり、いずれも減少傾向が続いています。**（表－５参照）**

【表－５】　京都市、京都府及び全国の合計特殊出生率の推移

年次	出　生　数（人）　a)			合計特殊出生率　b) c)		
	京都市	京都府	全国	京都市 d)	京都府	全国
昭和45(1970)年	25,240	41,235	1,934,239	1.91	2.02	2.13
50(1975)年	22,457	39,921	1,901,440	1.66	1.81	1.91
55(1980)年	17,619	32,139	1,576,889	1.54	1.67	1.75
60(1985)年	15,643	28,479	1,431,577	1.55	1.68	1.76
平成元(1989)年	13,590	24,855	1,246,802	1.41	1.46	1.57
2(1990)年	13,386	24,209	1,221,585	1.38	1.48	1.54
3(1991)年	12,945	23,487	1,223,245	1.34	1.39	1.53
4(1992)年	13,113	23,838	1,208,989	1.34	1.38	1.50
5(1993)年	12,611	23,082	1,188,282	1.27	1.32	1.46
6(1994)年	13,352	24,245	1,238,328	1.33	1.37	1.50
7(1995)年	12,673	23,219	1,187,064	1.25	1.33	1.42
8(1996)年	13,204	24,023	1,206,555	1.27	1.30	1.43
9(1997)年	12,946	23,595	1,191,665	1.23	1.26	1.39
10(1998)年	13,144	24,312	1,203,147	1.23	1.26	1.38
11(1999)年	12,868	23,831	1,177,669	1.20	1.22	1.34
12(2000)年	13,002	23,997	1,190,547	1.21	1.28	1.36
13(2001)年	12,513	23,364	1,170,662	1.16	1.20	1.33
14(2002)年	12,386	22,859	1,153,855	1.15	1.17	1.32
15(2003)年	12,072	22,371	1,123,610	1.14	1.15	1.29
16(2004)年	11,764	22,066	1,110,721	1.12	1.14	1.29
17(2005)年	11,612	21,560	1,062,530	1.11	1.18	1.26
18(2006)年	11,845	22,100	1,092,674	1.14	1.19	1.32
19(2007)年	11,534	21,597	1,089,818	1.14	1.18	1.34
20(2008)年	11,789	21,842	1,091,156	1.19	1.22	1.37
21(2009)年	11,446	21,059	1,070,035	1.18	1.20	1.37
22(2010)年	11,556	21,234	1,071,304	1.21	1.28	1.39
23(2011)年	11,252	20,707	1,050,806	1.21	1.25	1.39
24(2012)年	11,050	20,111	1,037,231	1.21	1.23	1.41
25(2013)年	11,239	20,106	1,029,816	1.26	1.26	1.43
26(2014)年	10,978	19,583	1,003,539	1.26	1.24	1.42
27(2015)年	11,070	19,662	1,005,677	1.30	1.35	1.45
28(2016)年	10,921	19,327	976,978	1.30	1.34	1.44
29(2017)年	10,374	18,521	946,065	1.27	1.31	1.43
30(2018)年	9,989	17,909	918,400	1.25	1.29	1.42
令和元(2019)年	9,495	16,993	865,239	1.22	1.25	1.36
2(2020)年	9,251	16,440	840,835	1.21	1.26	1.33
3(2021)年	8,767	15,818	811,622	1.17	1.22	1.30
4(2022)年	8,372	15,068	770,759	1.15	1.18	1.26
5(2023)年	7,692	13,882	727,288	1.08	1.11	1.20
6(2024)年	7,090	12,938	686,173	1.01	1.05	1.15
7(2025)年	**6,948**	**12,677**	**671,270**	**1.01**	**1.03**	**1.14**

a)　本表中の出生数は厚生労働省「人口動態統計」の母の年齢（５歳階級）別出生数（確定値）による。

b)　本表中の全国及び京都府の合計特殊出生率は、厚生労働省「人口動態統計」の確定値による。ただし、令和７年の京都府は厚生労働省「人口動態統計」の概数値を用いている。

c)　合計特殊出生率の算出には以下の女性人口の値を用いている。

京都市　住民基本台帳人口の日本人女性人口（昭和 60 年以前は国勢調査による日本人女性人口）

全　国　国勢調査実施年は国勢調査、国勢調査実施年以外は推計人口による日本人女性人口

京都府　国勢調査実施年は国勢調査、国勢調査実施年以外は、平成 26 年以前は推計人口による女性人口、平成 28 年以後は推計人口による日本人女性人口

d)　旧京北町編入（平成 17（2005）年４月）以前の値は、合併前の市域で算出している。

(2) 都道府県別合計特殊出生率（厚生労働省「人口動態統計」の概数値で作成）

西日本で出生率が高い傾向

令和７（2025）年の合計特殊出生率（概数値）が最も高い都道府県は沖縄県で1.52、次いで宮崎県の1.46でした。一方、最も低いのは東京都で0.96、次いで北海道と宮城県の1.00でした。京都府は44番目（1.03）でした。

また、全国の合計特殊出生率の値である1.14を上回ったのは33県で、同率あるいは下回ったのは14都道府県でした。全体的には、西日本では比較的高く、東日本では比較的低い傾向にあります。（**表－６、図－２参照**）

【表－６】　都道府県別の状況

都道府県	合計特殊出生率	
	令和6年（2024）	令和7年（2025）
全国	1.15	1.14
北海道	1.01	1.00
青森県	1.14	1.10
岩手県	1.09	1.12
宮城県	1.00	1.00
秋田県	1.04	1.05
山形県	1.17	1.15
福島県	1.15	1.14
茨城県	1.16	1.15
栃木県	1.15	1.14
群馬県	1.20	1.18
埼玉県	1.09	1.06
千葉県	1.09	1.07
東京都	0.96	0.96
神奈川県	1.08	1.05
新潟県	1.14	1.13
富山県	1.29	1.31
石川県	1.23	1.30
福井県	1.46	1.45
山梨県	1.26	1.23
長野県	1.30	1.25
岐阜県	1.27	1.23
静岡県	1.19	1.21
愛知県	1.22	1.20
三重県	1.24	1.26
滋賀県	1.32	1.34
京都府	1.05	1.03
大阪府	1.14	1.13
兵庫県	1.23	1.23
奈良県	1.19	1.17
和歌山県	1.24	1.24
鳥取県	1.43	1.38
島根県	1.43	1.41
岡山県	1.27	1.23
広島県	1.29	1.27
山口県	1.36	1.32
徳島県	1.32	1.33
香川県	1.36	1.40
愛媛県	1.28	1.28
高知県	1.25	1.29
福岡県	1.22	1.21
佐賀県	1.41	1.38
長崎県	1.39	1.42
熊本県	1.39	1.40
大分県	1.37	1.33
宮崎県	1.43	1.46
鹿児島県	1.38	1.38
沖縄県	1.54	1.52
京都市（参考）	1.01	1.01

【図－２】　都道府県別の色分け地図

